

シリーズ「結核」⑦

結核の看護について

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

看護師 堺 博美

皆さんは結核について「人に感染する病気」、「入院して隔離される」などの印象を持たれてい

るのではないのでしょうか。結核は咳やくしゃみによって唾液や痰に混じった結核菌が空気中に飛び出し、それを吸い込むことによって人から人へと感染(飛沫感染)する病気ですが、感染した人すべてが発病する訳ではありません。体には自然に治そうとする力(抵抗力)があり、結核菌に感染しても何の症状もなく治り、気付かないことが多いのです。しかし、発病せずに済んだ人も何らかの原因で体の抵抗力が弱くなったとき(高齢の方や、糖尿病・胃の手術をした方など)などに発病しやすいといわれています。症状は微熱、咳、痰などの長引く風邪症状や食欲不振などがみられることが多いため、このような症状があれば早期に受診することをお勧めします。

ムースに継続できるよう医師、看護師、薬剤師、栄養士、担当保健師等が患者さんの治療や内服状況、副作用症状、検査結果などの情報交換を行なっています。このように診断から治療終了まで、様々な職種の人が一人の患者さんに関わります。

患者さんは、社会復帰への不安や副作用などの苦痛を抱え入院生活を送っています。そのため私達は治療だけでなく、患者さんが遠慮なく思いを訴えられる環境を作り、患者さんの思いに耳を傾け、信頼していただける関係を築いていくことが大切と考えています。また、皆さんに正しい結核の知識を持ってもらえるよう、研修会や講演会など要望に応じて行いたいと思います。

和歌山病院は、DO型結核相談支援センターを開設しています。気になる症状や結核に関する相談を受け付けていますのでお気軽にご利用下さい。

和歌山病院では、DO型結核相談支援センターは、自分で薬の管理ができる患者さんにセットしてもらい、薬の空き袋で内服できたことを確認する方法もあります。また、数種類の薬を一つの袋にまとめることや、紛失を防ぐため薬ケースの利用など患者さんに応じた方法などもあります。

結核を完全に治すためには、6ヶ月〜1年間の服薬が必要となります。毎日きちんと服薬すると、2週間で人に感染す

和歌山病院では、DO型結核相談支援センターは、自分で薬の管理ができる患者さんにセットしてもらい、薬の空き袋で内服できたことを確認する方法もあります。また、数種類の薬を一つの袋にまとめることや、紛失を防ぐため薬ケースの利用など患者さんに応じた方法などもあります。

TEL0738・32・7033
FAX0738・32・7034

相談時間 月曜日・金曜日(祝日を除く平日)午後1時〜午後4時

(本シリーズおわり)